

## 令和3年度 第2回学校運営協議会 報告

- 1 会議 令和3年11月22日(月) 16:00~17:00
- 2 出席者 学識経験者、地域住民代表、学校運営者(欠席)、保護者代表(欠席)
- 3 議題 (1) 本年度学校経営計画の進捗状況について  
(2) 学校教育自己診断について  
(3) 学校の取組について  
(4) 質疑・意見交換及び提言  
(5) その他
- 4 協議内容(説明および意見提言)
  - (1) 本年度学校経営計画の進捗状況について  
＜説明＞【資料3】
    - 授業の充実
      - ・来年度入学生からの観点別学習状況評価の試行を行っている
      - ・ICTの活用 プロジェクタやChromebookの活用で授業に変化
      - ・SDGs 探究 新聞記事を題材とした個人ワークの授業でスタート
    - 豊かな人間性の育成
    - 地域から信頼される学校づくり
      - ・チャレンジデイへの参画
      - ・箕面支援学校との交流を動画でのやり取りで進めている→概ね順調に進んでいる
  - (2) 学校教育自己診断について  
＜説明＞
    - 質問項目について
      - 生徒用  
38、39 → 生徒一人一台端末の導入にともなう質問の追加
      - 保護者用  
生徒用に対応する形になっている
      - 教員用  
質問項目を精選(50→41)  
Ⅱ. 学校運営に関するもの
        - 32 → 業務の偏りを解消する(首席は首席業務に専念など)
        - 33 → 分掌会議などを時間割の中に入れた
  - (3) 学校の取組について  
＜説明＞
    - 観点別学習状況評価への取組
      - ・令和4年度入学生からの実施
      - ・2学期末までに一人一回試行して検証し、報告書を提出
      - ・思考力・判断力・表現力、主体的に学びに向かう態度をどのように見取るか  
試行例・数学Ⅰ「三角比」 世の中にある三角比をさがす。  
問題を作成。解答してみる。いい問題を評価。  
国語 和歌 解釈を起承転結(四コマ漫画風)で表現、評価し合う
      - ・知識や技能を活用して関連付けて思考・判断・表現することや、より深く学ぶための学習の調整(主体的に学びに向かう態度) 具合をどのように評価するのか。

#### (4) 質疑・意見交換及び提言

##### 【授業見学の感想】

- ・2年前に見学した時と全く様子が違って、飛躍的にICT活用がすすんでいて驚いた
- ・ICT機器を使用されている授業が多く、生徒もタブレットを自然に操作しており驚いた
- ・プロジェクターから直接黒板に投影されるのをはじめてみたが、いい使い方だと思った
- ・授業形態が以前とはすごく変わっていた。話し合うことがすべてではないと思うが、生徒が話し合って課題解決をしている点がとてもいいと思った。
- ・いい感じで授業されている

##### 【委員からの質問・意見】

- ・タブレットが活用されているが、不適切な使用などへの対応は？  
⇒導入の前に情報モラルについて指導をしている  
今のところ、問題はおこっていないe.osaka.manabiのアカウントは、YouTubeが使用できないなど制限がある設定になっている。
- ・実際にタブレットを使ってどのように活用されているのか  
⇒GoogleClassroomをプロジェクタで投影し、教員と生徒でやり取りができる様子を実演した。
- ・観点別評価について  
⇒令和4年入学生から年次進行でスタートする  
これまで学んだ知識を使って思考や判断をすることにつながる課題を出している  
⇒授業中に評価をしだすと評価ばかりが主になってしまう恐れがあるので評価方法を考えないといけない  
⇒これまでも授業の関係でレポートを提出させたり、発表をさせたりそれぞれの教科で実施してきているが今回、それらの課題を「パフォーマンス課題」として評価基準を明確にして成績評価に反映させる必要があると考え、準備をしようとしている。  
⇒パフォーマンス評価は大学で行っているアウトプットに近いもののように感じた  
⇒成績評価に疑義が出た時の対応は？  
思考したが方向性が間違っているという場合には高い評価にはならない。なぜ主体的な姿勢が評価されるのか納得感のある評価にする必要がある。ABCで評価するとき、「Bの基準」が明確でないと評価がぶれてしまう。Bの基準が重要である。  
⇒何をすれば評価されるのかを明確にすること、年度当初に3つの観点でどのように評価していくのか十分に検討し、計画ができていることが重要であると考えている。  
「学び方を学ぶ」本来、学ぶことの根底にあるもの、学ぶことが楽しいと思える授業づくり、課題の設定が求められている。  
⇒阪大医学部の論文評価のポイントが参考になるかもしれない。大学の研究は世の中の役に立ってこそ値打ちがある、という観点から次のような基準になっている。  
（「おもしろくて役に立つ」「おもしろくないけど役に立つ」「ビジネスにならない」）  
フィギアスケートの評価も参考になるのでは？

⇒評価に疑義が出た時には生徒自身に

「あなたはと思う？」ときいてみて、授業者側の視点を示し、グレーになっている部分を埋める作業をする必要がある。

3観点の評価は人事評価にも近いものがあるのではないか。

「今回の評価はBだけれども、Aになるためにはこういう点を頑張る」とアドバイスを送ることが必要。「そこに愛はあるのか」ということ。

生徒がこの次どうすればいいのか示してあげることが重要。

- 地域連携について

⇒先日、北公園で行われたチャレンジDAYには1500名もの市民が参加した。

北千里生の活躍が大きく評価されていた。

地域の人たちに褒められたり、時には怒られたりする中で、自分自身の存在意義が感じることができる、貢献できる喜びにもつながり、生徒は必ず成長する。

地域に出ていく活動がもっとあればいい。

地域連携は生徒を育てるという気持ちで、機会を与えてあげてほしい。

## (5) その他（全体を通して）

教科用図書 選定・採択状況の報告  
（見本本の提示）